

令和7年1月30日

保護者様

北九州市立早鞆中学校
校長 園田 和臣

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

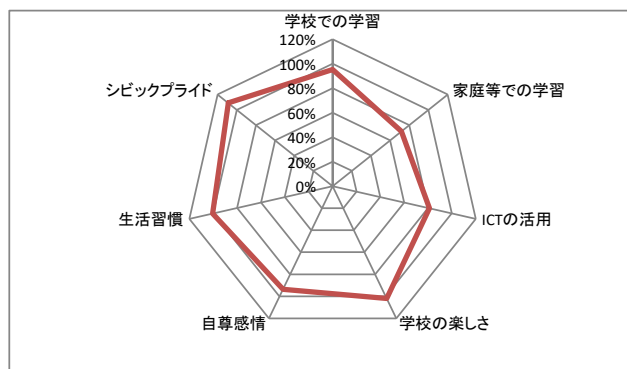
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	目的や意図に応じて集めた材料を整理し伝えたいことを明確にできる生徒は、全国平均より高かった。一方で話し合いの話題や展開を捉え、自分の考えを他者の発言と結び付けてまとめられない生徒が全国平均より多く、無回答も多かった。	下回っている
数学	日常生活に関するグラフの読み取り問題は、全国平均並みにできていた。一方で「なぜそうなるのか」を説明したり証明したりすることが苦手な生徒が多い。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足しているか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対して約90%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、生徒がより「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、ドリルアプリ等でも活用できるように啓発していく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・授業においては教え合いや学び合いを継続し、自分の考えを深めたり、広げたりできるように工夫する。
- ・ICT機器を活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、早鞆中学校で掲げている「学習の3カ条」を意識した授業を行う。またICT機器を有効活用し、主体的・対話的で深い学びや、個に応じた課題解決学習につなげていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・基本的な生活習慣や家庭学習の定着を目指した啓発を行う。
- ・生徒自ら課題を見つけ、主体的に学習する習慣を身に付けていくことができる工夫をしていく。（ICT機器を効果的に活用した課題解決学習の取組等）